

# 第21回 大分県生協大会開催

県生協連に加盟する12の生協は、生協運動の発展と会員相互の交流を深めるために、「第21回大分県生協大会」を県生協連主催で10月14日（金）全労済ソレイユにて開催しました。

この日は、県下の生協組合員や役職員など約80名が参加し、大会は、グリーンコープおおいたの松尾菊恵常務理事（県生協連監事）が総合司会となり大会がはじまり、主催者として工藤会長理事が「生協法制定」を記念して毎年開催しています。本年度は東日本大震災があったことから、災害支援や食品の放射性物質による農畜産物等の影響と健康影響について講演をいただくことになった。」とあいさつがあり、例年では来賓のあいさつがありますが、今回は講演時間との関係もあって無くし、すぐに講演となりました。



講演1では、生活協同組合コープおおいたの青木博範専務理事が、「コープおおいたの東日本大震災支援活動報告」と題して講演されました。

講義内容は、コープふくしまへの震災支援と復興支援活動で、1.支援活動では東日本大震災の被災状況の中で、支援活動として①取引先のみなさんやコープ九州と協力しての物資支援調達搬送、②募金・義援金活動として各被災地への募金・救援金活動では組合員募金は1,810万円（5月末現在）、福島指定募金220万円（9月末現在）、③メッセージ活動、④コープふくしまを拠点に15名の役職員が4週間（延べ90日間）に渡り、店舗支援、安否確認を兼ねた組合員への電話かけ等、また、震災後には、仲間づくり支援活動の人的支援活動、⑤自宅待機になっている南相馬市の被災者支援活動として、移動販売「負けないぞ!南相馬市」の販売活動への参加、2.被災地（相馬市）の3月下旬～4月上旬、震災から5ヶ月後（8月25日）のコープおおいたの職員や組合員が見た様子をスライドで、3.コープおおいたでは、コープふくしまを拠点に人的支援活動を通じて、深い絆が生まれたことからいつまでもつないでいくことを本年総代会で決議し、支援活動の3つの柱として①商品の買い支え活動、②生産者や組合員どうしの交流支援活動、③風評被害を防ぐ正しい知識を得るための情報支援活動として取り組みました。

商品の買い支え活動は、「毎月11日は、まけないぞ!ふくしまの日」として、その日の供給高の1%を福島県の生産者や加工食品メーカーへの支援金に寄付、生産者や組合員どうしの交流支援活動では、JA伊達みらいさんやコープふくしまとの交流会、情報支援活動では、総代会後に放射性物質に関する正しい知識を深める学習会の開催、3.その他の活動として、相馬市教育委員会・新地町教育委員会へ復興支援植樹贈呈、相馬市の中小学校への扇風機の贈呈、相馬市磯部小学校の児童より届いたお礼の手紙が紹介されて講演は終わりました。

引き続き、大分県立看護大学人間科学講座環境保健学研究室の甲斐倫明教授から、「放射性物質による農畜産物の影響と健康影響」と題して講演をいただきました。

講演内容は、コープおおいたでの講演の関係もあり、県の講演会で多くの質問があったものを参考に、①放射能とは、②放射性物質とは、③人体にどのような影響があるのか、④放射線の単位、⑤放射能の健康影響の特徴、⑥食品から摂取する放射性物質の量と積算、⑦内部被ばくのリスク、⑧飲食物摂取制限指標等について講演があり、質問を受けて大会は終わりました。

